



## おすすめのえほん

ぴかぴかのあとには・・・



『てんごく』

新美 南吉/詩  
長野 ヒデ子/絵  
のら書店 2023

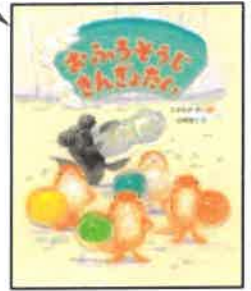
「おかあさんたちは みんな ひとつの、てんごくを もっています。」てんごくでは、こどもは、しあわせです。さて、てんごくはどこに？お母さんへの想いがこもった南吉の詩「天国」を長野さんが絵本にしました。

(KI)

『おふろそうじきんぎょたい』

とみなが まい/作  
山村 浩二/絵  
世界文化ワンダーグループ 2023  
キミちゃんは、おばあちゃんちのお風呂で初めてのお風呂掃除。とまどっていると、なんと金魚たちがあらわれ、“特殊装備”でお掃除指南を。縦横無尽の連携プレー、見ているだけじゃつまらない！

(TY)



『どうぶつみずそうどう』

かじり みな子/作  
偕成社 2023



だるまがえるのとうきち一家が米を作ることが出来るのも、なまずやいしがめと苦勞して作った用水路のおかげだ。ところが、新参者たちが勝手に流れを変えて大騒動に。

(S)

花や金魚、韓国らしい絵柄が美しい。

『ねこはわたしのまねばかり』  
クオン・ユンドク/作  
キム・ファン/訳  
あかね書房 2023

新聞の下、クローゼットの中、わたしが隠れるところに、ねこはいつでもついてくる。おはなしの中盤、わたしがねこのまねを始めると、外の世界に視点が広がって・・・。



(AK)



『ポストがぼつん』

北川 チハル/文  
小池 アミゴ/絵  
アリス館 2023

ねむっていたポストが海へドボン。おさかなのてがみは“かいがら”。森へポトン、小鳥のてがみは“つぼみ”。さばくへポスン、くものてがみは“なみだ”です。何が書いてあるのでしょうか？

(O)

『おきにいりのしろいドレスをきて  
レストランにいきました』

渡辺 朋/作  
高島 那生/絵  
童心社 2023



ウキウキとレストランに Go。おめかしして家族と食事をする女の子が、ががががーん。何が起こったかな？ そのあとは？声に出して読みながら画面をじっくり見ると楽しいよ。

(JY)

『おばあちゃんのにわ』

ジョーダン・スコット/作  
シドニー・スミス/絵  
原田 勝/訳  
偕成社 2023



移民で英語が上手に話せないおばあちゃんはニワトリ小屋だった家にくらし、庭でとれた野菜をぼくに食べさせて学校へ送ってくれました。雨の日はミズを探します。そして、今は・・・

(N)

## 『ノコギリザメのなみだ』

長 新太/作・絵  
フレーベル館 2023

ノコギリザメのおじいさんのノコギリが、ぼろぼろになりました。海のオバケが代わりになりそうな物をあれこれ探してくるけれど…。そのくり返しを長新太画伯が楽しませてくれる。



(H)

## 『やまをうごかしたミン・ローさん』

アーノルド・ローベル/作  
こみや ゆう/訳  
好学社 2023



大きな山の麓に暮らす夫婦が、ついには動かない山を動かしたという中国の寓話から、『ふたりはともだち』の人気作家A・ローベルのユニークな一冊。ユーモラスな語り口と温かい絵が魅力的。

(KW)



## 『ぼくのサビンカ』

ラデック・マリー/作  
出久根 育/絵・訳  
プロンズ新社 2023

ぼくとネコのサビンカは朝から夜までいつもいっしょ。「あさごはんはなに?」「きみのおきにいりはなに?」「どんなゆめをみるの?」など、ふたりの愛らしい一日が描かれます。

(N)

## 『ぼくのスカート』

ピーター・ブラウン/文・絵  
日高 庸晴/訳・監修  
小学館 2023



お父さんとお母さんの服をそれぞれ着てみたフレッド。お母さんの服は、ああい感じ。アクセサリやメイクもぴったり。自分の好きなおしゃれをたのしむってすてきです。

(M)



## 『夏』

あべ 弘士/作  
ほるぷ出版 2023

オオヒカゲチョウをもういちどみてみたい。たしかめたい。夏休みがあしたでおわる日、ぼくは自転車をこぐ。神社の森へ。光と影、動と静、世界とぼく。ここに夏がある。

(T)

## おすすめの物語

### 『すいとうのひとやすみ』

村上 しいこ/作  
長谷川 義史/絵  
PHP研究所 2023



家族でキャンプに行こうとしたら突然ぼくの水筒がしゃべりだした。「おいて行くななんてあんまりや」と怒って車の鍵を隠しちゃった。一緒に行くことになった水筒はにっこりして“ぴょこっ”と手足を出した。自分で歩けるんだって。

ぼくと水筒が鬼ごっこをしていたら、いじめっ子がやって来て…。

(S)

### 『ききみみトーマス』

桂 雀喜/原作  
あおき ひろえ/文・絵  
あかね書房 2023



テキサスに引っ越してきたトーマス。学校に行く途中、腹ペコのキツネにおいなりバーガーをわけてあげると、神様が動物の言葉が分かる不思議な羽根をくれた。

トーマスは、犬のジャッキの本音や子だくさんのアライグマのグチを聞くことに。

テキサスなのに、何故かみんな大阪弁。なんでやねん!

(K)

『図書館がくれた宝物』

ケイト・アルバス/作  
 櫛田 理絵/訳  
 徳間書店 2023



第二次大戦下のロンドン。身寄りのない12歳、11歳、9歳の兄妹は、大好きな本を1冊ずつ持って田舎へ疎開しました。疎開先には意地悪な双子がいたり、次々と滞在先が替わります。

でも、村には図書館があり、やさしい司書のミューラーさんがいて、「図書館がくれた宝物」が、最後にわかります。おなじみの本も次々と登場します。

(O)

『じゅげむの夏』

最上 一平/作  
 マメイケダ/絵  
 佼成出版社 2023



僕は仲の良い4人組。仲間の一人、かっちゃん筋ジストロフィーというだんだん動けなくなる病気にかかっている。4年生の夏休みが始まったある日、かっちゃんが、この夏休みにやりたいことを提案した。来年は今みたいに動けないかもしれないからと。僕ら4人は、じっくり計画をねって、そして動き始めた。

少年たちの、真っすぐで素直な生命力を感じる物語です。

(A)



『ベアトリスの予言』

ケイト・ディカミロ/作  
 ソフィー・ブラッコール/絵  
 評論社 2023

遠いむかし、読み書きは限られた人しか許されない国で、王はある予言に怯えていました。ところが、修道院の納屋で助けられた少女ベアトリスは、禁じられたことができたのです。

彼女は記憶を取り戻すと、我が身に起こった不幸な出来事は王の悪だくみだと気づき、正そうとしますが…。

自分の“力”を信じる一本気なベアトリスとちょっと変わった仲間たち。信頼する姿が素敵です。

(TY)



『希望のひとしずく』

キース・カラブレゼ/著  
 代田 亜香子/訳  
 理論社 2023

ライオン、アーネスト、リジーは、森の中で、願いがかなうという伝説の「トンプキンス井戸」の底を発見する。3人は祈りに来る人たちの願いを知ることになる。アーネストの死んだおじいちゃんの宝物が、それが必要な人の願いをかなえていく。運命のように。悩みを抱えている人たちに幸せな奇跡が起こり、町には思いやりの気持ちが始まる。

(M)

『そして、あの日 エンリコのスケッチブック』

リンデルト・クロムハウト/作  
 アンネマリー・ファン・ハーリングン/絵  
 岩崎書店 2023



その夏、エンリコは、じいちゃんと羊のいる谷間に通った。村の人々と挨拶をかわし、暮らしをスケッチブックに描きとめ、時には絵描きになってガールフレンドとこの村で暮らすことを思いえがきながら。

そして、あの日。突然、村は崩れる。イタリア、空飛ぶ聖人さまの話が伝えられる村の情景を少年の視点で淡々と描いた作品。

(T)

高校生以上の読者に、ぜひ手渡したい作品



『アゲイン』

あんず ゆき/作  
 丹下 京子/絵  
 フレーベル館 2023

「いっつも人まかせ、やってもらうばっかじゃん」と言われてへこんでいるアオイは6年生。だったが、カンナやリュウヘイに出会うことで、しだいに自分の意志で行動する子が変わってゆく。

アオイの成長物語を縦系に、コロナ禍の休業、貧困や孤食と、子ども食堂の温かいご飯やフードバンクを横系に、『アゲイン』は、ふたたび歩き出そう！との願いを込めて綴られたお話。

(HF)



# おすすめのその他のジャンル



『ホッキョククジラのボウ 200年のたび』

アレックス・ボースマ/作・絵 ニック・パイエンソン/作  
千葉茂樹/訳 小学館 2023

北極海にくらすホッキョククジラは、なんと200年以上生きるといわれています。しずかで冷たい海に生まれたボウ。しだいに行きかう船で海はさわがしくなり、温暖化で氷が少なくなり、ボウがみてきた200年を語ります。

(YO)

『ちきゅうのかいだん』

松岡 たつひで/作・絵  
金の星社 2023



ちきゅうはかせの案内で階段を降りると、そこは時代をさかのぼる不思議な階段。絵本を縦に開いていくと時代をどんどんさかのぼり、いろんな生き物が登場。地球46億年の歴史を楽しく学べるよ。さあドアを開いてみよう。

(JY)



『すもうのずかん』

オゼキ イサム/絵  
藤井 康生/監修  
Gakken 2023

日本伝統のスポーツ「すもう」。その魅力や目からウロコの豆知識がたくさん詰まった、絵本のような図鑑です。土俵でのマナーや勝ち負けを決めるためのルール、技、力士を支える人たちの紹介など…。すもうを見る目が変わります。

(F)

菌類の生き方やカビに  
びっくりの連続！

『奇妙で不思議な菌類の世界』

リン・ボディ/著  
ウェンジア・タン/イラスト  
白水 貴/監・訳  
斉藤 隆史/訳  
創元社 2023



きのこや酵母やカビ等はなじみがあるが、それ以外にも広くて大きな菌類の世界がある。菌類がいなければ、自然の生態系は壊れてしまう。目にはみえないけれど、大切な菌類のすばらしい世界を感じてみましょう。

(KI)

『ニワシドリのひみつをもとめて  
ものづくりする鳥のふしぎをさぐる旅』

鈴木 まもる/著  
理論社 2023



赤や青の実でかざった美しい「アズマヤ」をつくるニワシドリ。なぜこんなものをつくるんだろう？その美しさに魅せられた絵本作家が、なぞの鳥をもとめてオーストラリア、パプアニューギニア、イリアンジャヤへと旅をします。全ページ楽しいイラスト付き。

(YO)



『世界一長い鉄道トンネル スイス・アルプス山脈をほりすすむ』  
笹沢 教一/文 鈴木 さちこ/絵 Gakken 2023

2016年、スイスのアルプス山脈を貫く世界一長い鉄道トンネルが開通しました。2兆円以上かかった大工事、そんなトンネルがなぜ必要だったのでしょうか。アルプス山脈を掘り進めた技術とは？

(H)